

日蓮大聖人御書全集

なんじょうどののにようぼうごへんじ

南条殿女房御返事

新版
1876

なんじようどののにようぼうごへんじ

南条殿女房御返事

こうあんがんねん

がつ にち

さい

なんじようときみつ

つま

弘安元年('78) 5月24日

57歳

(南条時光の妻)

こめにたわら おく た そうら お

たびたび おんこころざし もう

八木二俵、送り給び候い了わんぬ。

度々の御志、申

っ がた そうろう

し尽くし難く候。

そ みず かんつ こおり

ゆき としかさ すいしよう

夫れ、水は寒積もれば氷となる、雪は年累なつて水精と

あくつ じごく

ぜんつ ほとけ によにん

なる。悪積もれば地獄となる、善積もれば仏となる。女人は

しつと どくじや

ほけきようくよう くどく

嫉妬かさなれば毒蛇となる。法華経供養の功德かさなれば、

りゆうによ 跡 継

あに竜女があとをつがざらん。

やま かわ うま げにん

山といい、河といい、馬といい、下人といい、かたがた

難 艱

なんかんのところに、度々の御志、申すばかりなし。

たびたび おんこころざし もう

ごしよろう ひと りんじゅうしようねん りようぜんじようどうたが

御所労の人の臨終正念、靈山浄土疑いなかるべし。

ごがつにじゅうよつか

にちれん かおう

五月二十四日

日蓮 花押

ごへんじ

御返事